

# 緊急連絡道路（田名部地区） 救急車等に利用すべきでは 平時は利用できない

平時は利用できない

**問** 三陸沿岸道路の緊急連絡道路は救急車等の走行に利用できないか。上豊間根、田名部地区は、救急車の走行ルートとして三沿道を利用し、山田北インターを降りたとすると山田方面へ相当戻る形となる。ロスタイムが発生するため、国道45号を走行せざるを得ない現状がある。同地区には、緊急連絡道路が設置されており、救急車がこの道路が利用できれば、同地区の救急患者対応へ大幅な時間短縮が期待され、救命率の向上につながるのでは。

**佐藤町長** 当該緊急連絡道路は災害時の救援物資の輸送や緊急的な避難の場合などに限り利用する施設として配置された。災害時の通行規制により許可を受けた車両以外の通行ができないことから、平時の救急車両等も利用できない。

同地区には、緊急連絡道路が設置されており、救急車がこの道路が利用できれば、同地区の救急患者対応へ大幅な時間短縮が期待され、救命率の向上につながるのでは。



救急車の通行が望まれる緊急車両対応道路



木村洋子 議員  
(日本共産党)

その他の質問

◆被災者の再建の進捗状況とそれに対する支援は

地域公共交通網形成計画

宮古へのコースも  
組み入れるべきでは

町外へは鉄道やバスの利用で

**問** 本町の地域医療の課題として、医師不足があり、そのため専門医のいる宮古方面などの病院へ行かざるを得ないという現状がある。患者の中には、長期にわたる治療や高齢化に伴い、既存の交通では利用が困難になっている状況も見受けられる。また、タクシーでは経済的負担が大きい。公共交通網の計画の中に宮古へのコースを週1回でも組み入れていくべきではないか。住み慣れた地域で暮らしていくためには重要な課題と考える。

**町長** 町内路線と宮古方面等に運行される広域路線とを結ぶ交通ネットワークの構築も計画に組み込まれている。町外への通院はこれまでどおり鉄道やバス等の公共交通機関を利用してほしい。

ひきこもりへの対応は

個別に対応している

**問** 全国的にひきこもりが増加傾向にあり、問題の複雑さがさらに深刻になっている。本町においても身近な問題であり、対応はどのようになっていくのか。

**町長** 家族や地域住民からの相談があった場合に、面談や訪問により状況を把握した上で、専門の相談窓口につなげていく。他機関で実施するひきこもり家族を対象とした教室への参加を促すなど個別に対応している。